

## 1 研究主題

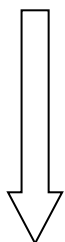
対話的な学びを通して、  
自らの学びを自覚し、表現できる子どもの育成

【研修主題のイメージ】

学習課題・自らの課題

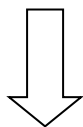


「ひと、もの、こと」と豊かに関わり合いながら、主体的に課題解決に迫る。



- 「ひと」との対話** 学習仲間や教師などに関わることで、自分の考えを広げたり、再構築したり、集約したり、比較したりする。
- 「もの」との対話** 資料、文献などから分かったことを、自分なりに整理しながらまとめる。
- 「こと」との対話** 体験したことなどから、気付きや新たな発見を見出す。

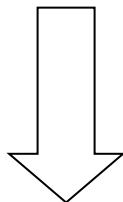
「対話的な学び」を生かして、自己の学びを広げ、深める。



### 研究の視点①ねらいに迫るための「対話的な学び」

- ・ 何のための対話なのか、必要性を明確にする。
- ・ より深い学びにつなげるための話し手と聴き手のスキルアップ

「振り返り」に表す過程で、自己の学びを見つめ直す。



### 研究の視点②自己の学びを見つめ直す「振り返り」

- ・ 本時のめあてに立ち戻るための途中振り返り
- ・ 学習内容や学習活動を確認するための途中振り返り
- ・ わかる（学んだ内容）、かかわる（学び方）、つながる（学びの連続・広がり）に基づいた振り返り

一人ひとりの「深い学び」の実現

## 2 めざす子どもの姿

研究主題を受け、各チームの発達の段階や子どもの実態から、めざす子ども像を設定することで、研究主題の実現に迫る。

チーム低学年	意欲的に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることを通して、自分の考えを広げ、学びのよさを振り返ることができる子ども
チーム中学年	友達の意見に反応したり、問い返したりすることを通して、自分の考えを深め、学びを振り返ることができる子ども
チーム高学年	目的を明確にして対話することを通して、自己の変容や深まりを実感し、それらを表現できる子ども
ひまわり	ひと、もの、こととの関わりを通して、自分の学びを自覚し、表現できる子ども

## 3 研究の視点

### ① ねらいに迫るための「対話的な学び」

何を目的として対話的な活動を仕組むか。

- ・互いの考えの比較
- ・多様な情報の収集
- ・互いの考えの集約 など

どのような形態で対話をさせるか。

- ・一斉学習
- ・グループ学習
- ・ペア学習
- ・個別学習

どのような対話を期待するか。

#### 「ひと」との対話

- ・考え方を手掛かりとしての説明 「〇〇さんに考えが似ていて…。」  
「〇〇さんの考えとは少し違って…。」

#### 「もの」との対話

- ・多様な手段を使っての説明 「思考ツール（図やグラフなど）で表してみると…。」
- ・資料などからの気付き 「この資料から、分かることは…。」  
「資料Aと資料Bを比べてみると…。」  
「資料のこの部分に着目すると…。」 など

#### 「こと」との対話

- ・体験からの気付き 「実際に体験してみると…。」  
「予想では、〇〇だったけど…。」  
「見学に行って、聞いてみると…。」  
「〇〇してみると、うまくできるかな。」 など

### 深い学びにつなげるための「共有」

- ・反応することを徹底
- ・問い返しや会話を促す言葉による考えの深化
- ・表現の往復

※より深く考えさせるための聴き手のスキルを育成

## ② 自己の学びを見つめ直す「振り返り」

### 授業の途中で行う「途中振り返り」

- ・本時のめあてへの立ち戻り
- ・学習内容や学習活動が自らの学びとなっているかの確認

### 授業の終末を中心とした「振り返り」

- ・①わかる, ②かかわる, ③つなげるの3つのポイントから, 各チームの振り返りの視点を設定

【低学年】 ①分かったこと

②自分や友達の考えのよかったところ

③もっと学習したいこと

【中学年】 ①新しく分かったこと

②自分や友達の考えを比べて, 考えたこと

③もっと学習したいこと・前の学習と似ていた(違った)ところ

【高学年】 ①新しく分かったこと・大切だと思ったこと

②友達の考えから学んだこと, 自分の考えが広がったり, 深まったりしたこと

③もっと学習したいこと・生活や次の学習で活用したいこと

※ ひまわり学級については, 子どもの実態に応じて振り返りの視点を設定する。

※ 『深川小学校 振り返り様式』参照 【別紙1】

### 【ICT機器の効果的な活用】

- ・何を使うか
- ・どのような活動の場面で使うか
- ・それによってどのような利点があるか
- ・授業のねらいに即しているか

## 4 研究の方法

- 各チームによる教材研究・授業研究(めざす子どもの姿の実現に向けて)
- 全校授業研究による研究協議(低・中・高学年で年間3回行う。)
- ユニット型研修(低・中・高で全校授業研究にあたってない学年が行う。)
- 一人一授業(原則各学年が学期ごとに振り分けて行う。)
- 指導案の形式は総案, または簡易総案
- 教科を限定しない。

### 全校授業研究

- ・ 授業者は、指導案検討の1週間前までにチームのメンバー・研修主任・研修推進委員（場合によって情報教育管理班）に総案（第1案）を配付しておく。
- ・ 指導案検討会は、授業者・チームのメンバー・研修主任・研修推進委員（場合によって情報教育管理班）で行い、意見を基に指導案の改善をして、1週間後に研修主任に提出→起案
- ・ 授業日の約1週間前までに、全教職員に総案を配付し、終礼時に授業のねらいや参観のポイントなどを説明
- ・ 授業日の放課後、研究協議会

### ユニット型研修

- ・ 授業者は、1週間前までに全教職員・地域の方（ユニット型研修の一環で授業参観をしている方）に総案を配付する。
- ・ 参観者はチームメンバー、その他希望者
- ・ 参観者に「参観カード」を提出してもらい、研究協議会に替える。

### 一人一授業

- ・ 授業者は、1カ月前までに日時を研修主任に伝える。
- ・ 1週間前までに全教職員に指導案を配付する。
- ・ 参観者は学年部、その他希望者
- ・ 参観者に「参観カード」を提出してもらい、研究協議会に替える。

※ ユニット型研修・一人一授業の指導案検討が必要な場合は各チームで適宜行う。

## 5 研究組織

チーム低学年	チーム中学年	チーム高学年
・ 江原 昌世 ◎末永 莉奈 ◎木村 康子 ○喜多 和美 ・ 中野 亜矢 ・ 重原 幸子 ・ 板村 幸子 ・ 能見 真由子 ・ 河崎 克代	・ 藤村 映子 ◎東 扶実 ・ 小田 浩斗 ◎増山 萌 ・ 松岡 美和 ・ 太田 貴之 ・ 浦本 裕美子 ○木村 昌哉 ・ 山村 千恵 ・ 伊藤 龍太 ・ 上領 千佳子	◎中村 玲子 ○都野 誠一 ・ 山本 萌香 ・ 高橋 博子 ○山崎 遼太郎 ◎長安 幸菜 ・ 河村 文美子 ・ 中谷 和美 ・ 村田 光久 ・ 吉田 宏

◎は、研修推進委員

○は、情報教育管理班

- ・ 各学年に研修推進委員を位置付け、推進委員を中心として指導案検討や校内研修の取りまとめなどを行う。
- ・ 情報教育管理班を中心に、プログラミング・ICT研修の指導計画案、1人1台端末活用授業の指導計画案などを検討したりする。